



あけましておめでとうございます

皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、佐波福祉会の運営に対し、温かいご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。旧年中は新型コロナウイルス感染症防止のため、利用者の皆様ご家族の皆様に大変なご不便をおかけいたしました。皆様のご理解とご協力により、お陰をもちまして施設内感染を阻止することができました。現在、世界各地で新たな変異株オミクロンの感染が急速に拡大しております、今後日本でも感染拡大が懸念されております。佐波福祉会としては、これからの気を引き締めて利用者の皆様の安心安全の確保を最優先としてまいります。皆様のご理解とご協力をよりしくお願い申し上げます。

明るいニュースとしては、一昨年施設内で掘削された温泉の工事が完了し、近く、デイサービスでの利用が開始となります。皆様に喜んでいただけるとうち宛温泉として取り組んでまいります。

本法人の基本理念「敬愛」の精神を大切に、これからもご家族の皆様と連携を密にしながら、利用者の皆様に心のこもった質の高い介護サービスの提供に努め、地域の皆様へ愛され信頼される施設として努力してまいります。皆様のご指導ご支援をよりしくお願い申し上げます。

新年にあたり皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



社会福祉法人佐波福祉会
理事長 山本 彰治

役員一同

「福祉の出前講座」

11月29日、山口県福祉人材センターの依頼により山口市立中央小学校において、3年生を対象とした出前講座を実施しました。



「福祉・介護の仕事を知ろう」車いす体験・介助体験を通して」というテーマに基づき、介護の仕事についての説明、車いすでの移動を体験してもらいました。

また、児童全員に福祉車両へ車いすのままでの乗り込み体験をしてもらおうと、講座予定時間を30分程度オーバーしてしまいました。この日の児童さんが将来福祉の



仕事に従事するきっかけとなれば幸いです。また、過去9月28日には、徳地中学校の1年

生を対象とした出前講座を市社会協議会との共同事業として実施しました。この様子は山口ケーブルテレビで放映されました。

地域貢献事業

八坂小学校の5・6年生を対象とした校外学習の送迎支援を行いました。

10月19日には愛鳥林でのバードウォッチング。10月28日には重源の郷の「伝承館」などでの郷土学習に同行しました。



ゲリラライブ開催

11月4日、とくぢ苑デイサービス玄関前で八坂小児童による重源太鼓ゲリラライブが開催されました。少し肌寒い日でしたが、コロナウイルス感染予防のため、苑内でのボランティアの自粛をお願いしている状況下での来客に、利用者の皆様はとても喜ばれていました。

この日のライブは民放2社で放映されました。



表彰受賞者紹介

10月27日、社会福祉事業への功労と実績が認められ、とくぢ苑の入江介護職員、長谷介護職員と松村看護職員が山口県老人福祉施設協議会会長表彰を受賞しました。

これからも引き続き良いサービスの提供に努めます。



消防避難訓練

10月13日、夜間の火災を想定した消防避難訓練を特養とくぢ苑・かじかの里・まなごの居住施設において、コロナ感染防止のため規模を縮小して実施しました。

通報訓練・消火訓練の他、特養では夜勤者が浴室やトイレを含め全室を回り、避難誘導と避難漏れは無いかの確認を行いました。職員それぞれが同じ行動を取り、スムーズな避難ができるようこれからも訓練を積んで参ります。



ヘルパー日記

先日訪問先の利用者さんに、「ヘルパーさんが来る時くらいしか話をせんから、色々話し過ぎてしまう…」と笑顔で言われた。

沢山話をして笑顔になることは元気の源だ。1日でも長く在宅生活が継続できるよう、ヘルパーが訪問する時にはいっぱい話をして少しでも笑顔になって貰いたいと願う。



各施設の門松に使われるこも作り(まなご)



おやつバイキングでクリスマス会
(とくち苑ユニット)



豪華！寿司バイキング (とくち苑デイ)



ティッシュケース作り(まなご)

楽しかった
あんなこと
こんなこと…
各事業所の行事



杉玉完成！ (とくち苑デイ)



しめ縄飾り作り (とくち苑デイ)



干支の貼り絵 (とくち苑デイ)



運動会開催
その後の
お昼ご飯は
ラムネで乾杯！
(かじかの里)



みんなのアイドル☆託児の子供と (まなご)



まなごの利用者さんと一緒に芋ほり(かじかの里)

【いずれは迎える最期 ～看取り～ について】

要介護3以上の方が入所される特別養護老人ホームは『終の棲家』といわれるように人生の最期を施設で迎えられ方がおられます。とくち苑では「看取りケア」に力を入れ、これまでたくさんのご家族と連携して取り組んで参りました。ケースは毎回異なり、ご家族の葛藤・職員の後悔や最期まで支援してあげられたという充実感が繰り返されています。そこで、今回は看取り期について考えてみたいと思います。

「状態の変化」

看取り期になると、目が覚めている時間が短くなる、日中も目を閉じていることが多くなる、反応が乏しくなる、食事の摂取量が減ってくる等の変化(サイン)が見られます。

家族への説明

日々の状態を観察し医師と連携を取った上で、ご家族に「看取り」の状態であることをお伝えします。なかなか受け入れることが難しいご家族もおられます。この時点でご家族の希望により入院という選択もあります。



苑での「看取りケア」

ご家族の意向を基に、その人らしい穏やかで自然な最期の迎え方を実現するために、看護・介護・給食部門等多職種協働で本人に無用の苦痛や不快、負担をかけないよう状態に合わせたケアを実施しています。



『死にゆく人の体と心に起こること、大切な人の死に直面した人の心に起こること』を理解した上で、誰にも訪れる終末期との向き合い方を考えてみられてはいかがでしょうか。



看取りを考える上での一助となれば

玉置妙憂(看護師・看護教員・ケアマネージャー・僧侶)著
「死にゆく人の心に寄りそう 医療と宗教の間のケア」光文社新書、2019

「看取り」とは…

「近い将来、死が避けられないとされた人に対し、身体的苦痛や精神的苦痛を緩和・軽減するとともに、人生の最期まで尊厳ある生活を支援すること」とされています。

(全国老人福祉施設協議会『看取り介護指針・説明支援ツール』より)

編集委員

入江 里美	藤本 亜希子
小田 重将	内田 政子
加藤 綾	山田 純子
中山 邦恵	山本 弘子
東 圭一	米田 美樹
平尾 泰文	(50音順)

〈編集後記〉

新年号でありながら、看取りの記事とは…と、怪訝(げん)に思われるかも知れませんが時を選ばない事案です。ご本人の希望、ご家族の思い、そして職員の対応——。それぞれが悔いの残らない最期であれば何よりです。2月の研修を前に事前に読んだ講師の著書の紹介とともに記事にさせていただきました。

現在、新型コロナウイルス感染予防の為、ボランティアの皆さまには、ご来苑を自粛いただいております。
ご協力ありがとうございます。